

# 成果報告書

平成16年10月31日

「発生教材を通じて中学生に生命とは何かを学ばせる教材の開発」

東京都立大学理学部生物学科<sup>生</sup>プログラム研究室客員研究員  
東京都江戸川区立小松川第二中学校教諭 飯塚光司

## ・研究テーマの主旨

中学生に命の大切さを知ってもらうことを目的に、「生命尊重の学習」と本年度の教育目標を定め、平成16年度10月30日の文化祭にむけて多くの取り組みが成された。

## ・活動状況

江戸川区立小松川二中での実践活動

### 平成15年

10月 ニワトリ有精卵を用いて、選択理科を受けている生徒達と理科部員に10日目胚までの命の芽吹きを観察させた。特に心臓の鼓動の様子が観察でき命への畏敬の念を喚起させた。解剖後の亡骸は裏庭に丁寧に埋葬させた。

### 平成16年

2月 ヒダサンショウウオの産卵場の予備調査を奥多摩川井で行ったが生徒を連れて行くには危険度が多く断念した。

3月 大井野鳥公園に理科部の生徒を引率した。絶滅に瀕する野鳥たちを、バードウォッチングという体験カリキュラムを通じて、生命尊重の心を培わせた。

4月 理科部の活動で千葉県大多喜町養老溪谷のトウキョウサンショウウオの産卵場所に行き、サンショウウオ観察会をおこなった。JRはじめ小湊鉄道（日本一値段の高い私鉄）の発着時刻は2年生部長の鉄道マニアの生徒がマネジメントした。

5月 前任校の六郷中学校で作成した国際人道法入門（日本赤十字社編集）を3学年の生徒に道德の公開授業で見てもらい、ジュネーブ協定4箇条追加2議定書をもとに命の大切さについて生徒間で話し合わせた。

6月 理科部の活動で板橋区高島平ホテル飼育施設に行った。日本の自然の豊かさをホテルという日本人にとって特別な感性を喚起する水生昆虫（幼虫期）とその生息環境を体感させた。

6月10、11日 ハコネサンショウウオの発生教材採集に福島県南会津郡檜枝岐村に向くが受精卵の採取に成功せず。生徒実験教材として使用できなかったのが残念である。

7月 世田谷区等々力溪谷に生徒を引率した。学校に隣接した平井駅から全て都バスを3回乗り継ぎ、世田谷に到着。全てバスマニアの生徒がマネジメントしての楽しいエクスカッションであった。多摩川の自然を満喫した。

9月 江東区夢の島熱帯植物館と第五福竜丸展示館に小学生1名（本校中学1年生の妹）と理科部員および本校1学年の有志10人と見学会を実施。熱帯植物館で植物の生命の息

吹を体感させた。1階の大温室展望レストランで全員の生徒児童に本館特性ココナツアイスクリーム（1個450円）を味覚体験させた。また、第五福竜丸展示館では1954年世界発の水爆実験による焼津港マグロ漁船員たちの死の灰による尊い命が奪われたことを学ばせた。翌年1955年この悲惨な出来事をきっかけにアインシュタイン、ラッセルらによるマニフェスト（原水爆実験の科学者、文化人による核利用平和宣言）についても指導員の方々から丁寧な説明をいただいた。

10月30日 文化祭で上記の活動を中心に理科部員4名によるコンピュータを用いたプレゼンテーション（生徒研究発表）をさせた。36枚のスライドを用いて全校生徒にむけて命の尊さ、命の大切さを訴えた。この文化祭では、3学年有志による「生まれてくる赤子の命の大切さ」の劇も観客の涙と感動を喚起した。大成功の文化祭であった。

#### ・活動状況の成果

東京新聞主催「がんばれ先生」東京新聞教育賞に詳細な記述が出ていますのでそれを参照してください。（添付書類）

#### ・今後の課題

昨年に引き続き「生命尊重の学習（1）（2）」と教育実践内容を10月の文化祭で生徒達に発表させてきたが、ネイチャースタディープログラムを通じて土曜日や総合的学習の時間を活用した自然体験学習を今後さらに充実させ、中学生の豊かな心が培われる経験学習プログラムを開発していく所存である。